

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100246		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	高知県香南市吉川町古川340番地2		
自己評価作成日	平成28年5月16日	評価結果 市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成27年3月に高台移転し、新施設となりました。JR吉川駅より徒歩10分程の木々に囲まれた小高い閑静な場所にあり、総合福祉ゾーンオークの里の一角に位置しています。併設として、身体障害者支援施設、ケアハウス、デイサービスといった事業所等があり、複合施設としての機能性を活かし、様々な職種との連携が図れております。事業所内は、全室個室となっており、食堂・ホールでは入居者がゆったりと、くつろいで過ごしていただける空間となっております。また、音楽療法や心身機能の維持、向上を目指した生活リハビリ、多彩なレクリエーション等、個々に応じた趣味活動が、意欲的にできるよう取り組んでおります。また、毎食手作りのお食事は、対面式で暖かい雰囲気キッチンで、調理や配膳、後片付け等、入居者様と一緒に楽しく行っています。災害対策としては、ゾーン内での消防計画に基づき、年間で定期的に火災・地震・津波・通報訓練等を実施し、災害時に備えるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=3972100246-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年7月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は昨年3月、小高い閑静な場所に移転している。身体障害者支援施設、ケアハウス、デイサービスなどを併設する総合福祉ゾーンの一画にある。防災訓練や行事等はゾーン全体で取り組み、それぞれの職種との情報交換や利用者同士の交流を図っている。同法人の他のグループホームを管理者が気軽に訪問し、利用者への対応等について意見交換しながら、法人全体で入居者のサービス向上に努めている。

また、移転時に職員全員で理念の見直しを行い、新たな理念を作成している。自分達で作った「人との「関わり」と「なごみ」を大切に、和やかな気持ちで暮らせるよう、また誰でも気軽に立ち寄ることができる環境づくりを目指す」等の理念を確認しながら、日々のケアに努めている。職員同士のチームワークが良く、管理者は職員の成長、進歩を喜び、職員は注意だけで終わらず、適切なアドバイスがもらえる管理者であると互いに評価し合える関係を築いており、利用者の暮らしやすい日常生活につながっている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、職員共に、毎日笑顔で楽しく生活が送れるよう、挨拶を基本に誰でも気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りに取り組んでいる。	新施設への移転後、理念について全職員で話し合い、「人との関わり、なごみを大切に」を基本に、「日々笑顔で和やかな生活が送れ、誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気作りを目指す」という趣旨の理念を掲げ、職員会や申し送りで確認しながら実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をはじめ、地域の清掃活動や地域ボランティアの方々の受入れなどを積極的に行い、交流への取り組みを行っている。地域清掃では、参加を重ねることで徐々に近所の方にも覚えていただけて、会話ができるようになってきた。	移転後間がないが、地区の清掃活動に参加し、神社の掃除をしたり地域のボランティアを受け入れるなど、積極的に地域との交流を図っている。また、地区長から行事等の情報を得ながら、徐々に地域との関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成講座へ参加したが、まだ実際に地域での活動は行えていない。今後、地域の中で、認知症への理解や高齢者の生活について等、地域住民に知っていただけるような機会を作っていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所での取り組みや、業務の取り組み、研修等、報告を行い、相談、意見等を含め、開かれた施設運営が行えるよう、行政関係者や地域住民、ご家族様より助言や指導を頂き、サービス向上に努めている。	業務等の取り組みや利用者、職員の状況、状態等を報告し、会議参加者の理解を得ている。参加者が行政、家族代表、地区長に限られているが、今後は消防署や民生委員等の参加を依頼し、地域の情報収集や事業所の周知を図っていくことを考えている。	幅広い立場の人の参加を得て、運営推進会議の意義や役割を理解してもらいながら、地域の情報収集を行い、またサービス評価等の内容を報告して意見をもらうなど、より充実した会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や集団指導、勉強会を通じ、また、市町村への訪問や電話などにて情報収集の機会を作るようにしている。また、事業所の職員も定着していることで協力体制が築けてきている。	市の集団指導に参加したり、困難事例の相談や情報の収集・提供、サービスの取り組み状況など、市の担当職員に異動があっても、市への訪問時や電話でいつでも話せる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、法人内での研修参加やゾーン内での職員会などで、身体拘束についての勉強会を行い、他部署と意見を交えながら職員間で意識を高めるよう取り組んでいる。日々の生活の中でも、どのようなことが身体拘束にあたるのか、きちんと理解し、入居者様が生き生きと過ごせるよう努めている。	身体拘束について研修等に参加したり、法人内で勉強会を行い拘束のないケアの意識づけを行っている。ケアにおける何気ない言葉が拘束にあたることもあるので、注意しながらその都度話し合っている。利用者の安全上必要な場合は、行動の制限等を家族に説明し了解のうえ、時間を定めて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉の虐待も含め、常に高齢者の尊厳を訴え、毎月の委員会や法人内の研修などでも学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が生じた時は、関係者と話し合い活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、お時間をいただき、契約内容や施設での生活について、医療面について等さまざまな事をご説明させていただいている。また、途中、疑問に思ったことは無いか確認を行いながら話を進めて行くよう気に掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入り口には意見箱を設置しているが、家族様の面会時や電話対応でも意見や要望の出しやすい環境作りを心掛けている。施設全体で第三者委員も設置しており、ご家族や入居者が安心して利用できるように配慮している。	利用者には要望を聞くために具体例を示すなど、聞き取りを工夫している。行事や家族会への家族の参加が少なく、家族が限定されているが、面会時や電話などを通じて事業内容を伝え、要望等を聞くようにしている。	家族会や行事への参加が少ない理由を検討し、参加者が増える工夫をして要望や意見を聞くとともに、家族同士が本音を話し合える場を設定して、ケアに反映させることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会を行い、事業所の職員同士で情報共有するとともに、意見交換を行い、その都度業務の改善やルールを決めて、よりよいケアに繋げるよう努めている。また、朝の申し送りでは、毎日小さな気付きなども職員同士で報告し合っている。	毎月の職員会で意見を出し合い、業務の改善等を行っている。日々の業務の中でも気づきがあれば、管理者や職員間で話し合っている。勤務に関してできる限りの希望を取り入れ、過度の負担がかからない工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員の苦情や相談の窓口を設けるとともに、事業所内では、普段から職員の仕事ぶりや言動、精神面等に変化がないか気に掛け、コミュニケーションを図りながらいつでも何かあれば相談しやすいように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各資格取得に向けて、法人内教育部の協力のもと、勉強会や研修に職員が参加できるよう勤務の調整等を行い、職員の知識向上、育成に取り組んでいる。また、事業所内でのリーダーを育成を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される勉強会や研修等に参加し、意見交換の場で得た情報を事業者を持ち帰り、職員間で情報共有しサービス向上が図れるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に楽しく本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の見学時や、入居前に十分な時間を取り、面接の中で、本人様やご家族からの意見や要望の聞き取りを行い、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に楽しく家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に相談受付を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。ご家族とよく話し合い、耳を傾け、信頼関係を築けるように常に気を配り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に訪問したり、面接時に念入りに意見や要望の聞き取りを行っており、必要時には連絡調整を行っている。また、事業所のみでなく、他部署との連携も視野に入れ、本人様に合ったサービスを見極めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人との関わり、和みを大切に、共に暮らす仲間として、互いに尊重しあう関係を築き、いつも和むことの出来る家族のように安心して暮らせる空間を提供できるよう、職員会や申送時には話し合いを行い、意識付けを行っている。入居者と職員は一緒に協力し、笑いのある生活を送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との協力体制を大切にしながら、面会時のほか、電話やお便りなどで、入居者様の状態を報告させていただき、相談や要望に耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用されていた馴染みの散髪屋や、ご自宅付近、皆様がよく覚えのある地域へのドライブなど関係性の継続に努めている。また、アルバムを見ながら思い出し、さまざまな思い出話などを聞きながら、昔の話などを相手から引き出しながらコミュニケーションを図っている。	以前利用していたデイサービス事業所を訪問したり、その利用者が来てくれている。また、職員と一緒に近くのスーパーや自宅周辺に出かけた時に、利用者の知人が声をかけてくれることもあり、関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が、共に仲良く楽しく過ごせるよう食事やレクリエーションなどの配席にも十分配慮し、日常生活の中で良好な人間関係が保てるよう取り組んでいる。少人数でもあり、名前が分からなくても互いを覚えられており、協力や相手を思いやる場面も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の相談受付や、退居された後も、電話や面会を通じてご本人の状況を聞き、施設入所の相談や再入居のご相談などにも応じて関係の継続性に努め、ご家族様が不安にならないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居申込時や契約時にご家族、入居者様の意向やご希望、趣味などを伺い把握するとともに、入居後もご家族の来訪時に伺い、それを取り入れながら日常の中で入居者様とのコミュニケーションの充実に努め、日々の日課や介助に取り組むよう努めている。	入居時に家族や関係者から情報を収集して状態を把握し、また入居後の利用者の表情や状態から新たな発見や変化を見出して記録し、希望、意向等を再確認しながらケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や事前にご本人やご家族から生活歴や環境などの綿密な聞き取りを行っている。また日々の暮らしの中でも、ご本人の発言や発語に耳を傾け、情報収集に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族やご本人からの聞き取りを基に、一人ひとり、毎日の生活の様子や会話から、ご本人のできることとできないこと、ペースやリズムの見極めを行いながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意見、要望、職員の日々お世話させていただく中での気付き等を話し合い、介護計画の中に反映するようにしており、観察力の向上に努めている。	介護計画は、家族の意見を聞き、職員間で意見交換して意向・要望等を反映させるよう、介護支援専門員が作成している。計画は3カ月毎に見直し、状態・状況に変化があったときはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の一日の生活状況が分かるように、個別記録の作成に努めている。入居者様の状態、変化等を申し送り、職員間で共有しながらその後には繋げるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で訪問看護師、言語聴覚士や作業療法士、管理栄養士、音楽療法士などと連携を図り、入居者の体調や状況に即した対応ができるように心掛けている。音楽療法、言語聴覚士による口腔嚥下勉強会等は月2回程度行われ、事業所で入居者の状態を見て、その場でアドバイスをいただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や、地域ボランティアの活用により、地域との連携や交流を深められるよう取り組んでいる。また、防災面での地域連携等、今後更に詰めた取り組みを行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より訪問診療を受け、必要に応じての受診対応を行っている。入居者様の状態により主治医の指示のもと、他の医療機関への受診の支援も行い適切な医療援助が受けられるよう努めている。	ほとんどの利用者が利便性から、協力医療機関を希望してかかりつけ医としている。訪問看護もあり、看護師を通じてかかりつけ医に指示をもらったり、適切な医療を受けている。専門医への定期受診は職員が対応し、受診結果は家族に連絡するとともに、職員は個人記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、月2回の定期訪問以外にも健康状態で気になる時は、24時間の連絡体制をはじめ、状態報告、相談を行っている。必要時、看護師の訪問を受け、助言や指導を頂きながら協力体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院期間中は、医療相談室と情報交換を密に行い、早期退院ができるよう調整を行っている。また、日頃から「医療相談室」等へ足を運んだり、電話にて事業所の状況を相談するなど、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも家族に十分な説明を行っているが、ご本人、ご家族様の意向の重度化した場合や看取りについては、事業所と各ご家族様ごとで、事前の話し合いを行っており、意向調査を実施している。また、日々その都度状態を報告させていただきながら、事業所内でも方針を共有しケアに努めている。	入居時に看取りに関する指針の説明を行い、家族の意向も聞きながら協力医との体制づくりや職員の研修や勉強会を行い、支援できる体制作りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外での研修参加を含め、急変時や事故発生時は日中、夜間と対応を行えるようマニュアルを周知し、指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら、定期的に地震・津波・火災・通報等の訓練を実施し、災害時に備え、避難誘導がスムーズに行えるようオークの里全体で取り組んでいる。	防災訓練にはゾーン全体で取り組んでおり、備蓄、食料品等は3日以上を想定して備蓄している。今後は地域の人達の協力も得られ、地域の避難場所にもなれるように考えている。	運営推進会議に地域の防災組織にも参加してもらおうなど、地域と一体となった体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会や研修などを通じ、尊厳の重視やプライバシーの保護について理解し、職員は声がけや対応時には特に見直し、注意を行っている。また、ゾーン内での他事業所への訪問等を行い、入居者への対応や訪問者への接遇など確認し合い、振り返りを行っている。	利用者の尊厳のある生活支援を重視し、プライバシーの保護に努めている。利用者への言葉遣いや排泄時の声掛けに配慮し、居室に置いているポータブルトイレにはカバーをかけている。また、利用者への呼びかけ方が尊厳を傷つけないよう、日々気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の普段の状態を日頃からよく観察し、その人の思いや、必要なケアの内容に気が付くように、職員間での情報共有に努め、随時提案していくよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のリズムやペースを尊重し、職員間で統一したケアを行えるよう、随時話し合いを行っている。また、個々にあった生活ができるように、本人様やご家族様の意見や希望に沿って支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや、季節感のある清潔な身だしなみを行うよう心がけ、一緒に選ぶなど個々にその日に合った服装で過ごしていただけるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や、後片付けなどの作業を協働で行っている。また、五感で感じることができるよう、温かく、美味しく、盛り付ける食器の工夫など見た目も食欲が出るような食事の提供を心掛けている。	メニューは利用者の栄養面に配慮して作成し、職員は食材の皮剥ぎ、配膳、片付けなどを利用者と一緒に行っている。行事食の時は利用者の希望を聞き、メニューを変更したり、盛り付けや食器の種類に気を配るなど、食べる楽しみを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、食事形態を把握し、状態観察をするとともに、嗜好に配慮した食事や、水分が摂れるよう努めている。理由があり、定時に食べていただけない場合でも、時間を空けて再度促しで摂取していただけるよう、随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を行い、必要に応じて介護計画にも反映させ、個々のニーズに応じたケアを提供している。言語聴覚士の訪問時は食事摂取時や口腔ケア時の助言、指導を受けながら、問題点は改善するよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行うようにしている。ご本人の状態に合わせた排泄用品を使用し、できる部分は状態維持できるよう支援している。	夜間は、紙おむつの利用者もいるが、日中はトイレで排泄できるように利用者の排泄パターンに応じて声かけしている。排泄の失敗の多かった利用者がトイレに行けるようになり、失敗がなくなった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況の把握に努め、できる限り自然な排便習慣がつくようトイレに座る習慣をつくり、適度な運動や水分補給、腹部マッサージなどを行っている。普段の食思、摂取量などの変化にも注意して観察し、必要時は看護師、主治医と連携を図り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り入居者様の希望に添う時間帯に、入浴できるよう時間調整を行っている。必要時には時間を決めず随時対応している。	時間帯などを利用者の希望に沿って調整したり、入浴剤は香りや肌への感触などそれぞれの利用者に合うよう工夫し、入浴を楽しめる対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、ご自分の時間を自由にリラックスして過ごしていただけるように努めている。夜間不眠がある方については、日中の活動性を高め、安眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての基礎知識の向上に努めると共に、服薬マニュアルの把握、入居者様については個別に服薬状況、副作用が分かるようファイルを作り、職員全員が確認し把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴や生活習慣、ご本人の持てる力に配慮し可能な活動への参加(レクリエーションや軽作業)をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や、地域の公園へ出かけたり、車を利用しての買い物やドライブなどを行い、気分転換を図るようにしている。	ドライブを兼ねて買い物や公園に行ったり、施設周辺を散歩している。事業所の移転後、利用者も落ち着いてきたので季節を感じられるように遠出も考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度であるが、管理ができる方には買い物に同行し、ご本人が好きなものを選んだり、支払えるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が直接電話を掛けられることは少ないが、希望時や面会の少ない方には、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂ホールは明るい雰囲気、静かな場所に位置しており日当たりも良い。入居者様にはもちろん、来訪者が施設内に入られた時に暖かく居心地の良い空間であるよう、季節に合わせた装飾品を飾るなどして、できる限り親しみの持てるように、創意工夫をしている。外部からの来訪者からも好感の声がいただけるようになってきている。	居間では、適度な採光のある明るい場所にソファを配置し、ゆったりと落ち着いた環境を保つようにしている。対面式のキッチンから声掛けしながら調理することで、利用者は家庭的な雰囲気の中で過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースでは、窓も多く明るく落ち着いた空間を意識し、皆様がくつろげる白いソファを設置し、テレビ視聴しやすいよう配置している。なんとなく、空間の中でも、一人ひとりが毎日過ごす位置が決まっており、自分はこの場所だと決められている方が多い。座る場所の譲り合いなど、相手を思う優しい場面も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、普段から使い慣れたものを、とお願している。家具等の持ち込みが難しい入居者様には、使いなれた道具や、身の回りの小物や写真、趣味の物などを安心を得るようにご家族様からの協力を得ながら、その人に合わせた工夫をしている。	居室にはパイプハンガーにかけた衣類やテレビ等が置かれ、壁にはカレンダー、家族や行事等の写真などを飾っている。また、趣味で作っている小物なども置いて、各利用者の好みに合った居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で、本人の能力や、残存機能の把握、維持に努めるとともに、常に危険予測し予防に努め、過剰な介助に注意し、できることを継続して行っていけるよう日々状態観察を行っている。身体面及び心の健康維持を第一に、事故のない毎日を送っていただけるよう努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない